

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	A-141	16-047
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門		
題名 (原題/訳)		
<p>Rapid transition from drinking to alcohol dependence among adolescent and young-adult newly incident drinkers in the United States, 2002–2013</p> <p>2002年から2013年のアメリカ合衆国の若年新規飲酒者における初回飲酒からアルコール依存への急速な移行</p>		
執筆者		
Cheng HG, Chandra M, Alcover KC, Anthony JC.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2016 Nov 1;168:61-68. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2016.08.015.		
キーワード		PMID
アルコール依存、若年、アメリカ合衆国、男女性差		27620346
要 旨		
<p>目的： アメリカ合衆国の若年飲酒者における初めての飲酒からアルコール依存への急速な移行について、男女・年齢間での相違を検討する。</p> <p>方法： 2002-2013年に行われた米国の国家調査 Drug Use and Health にてサンプリングされた、施設に収容されていない12歳から25歳のアメリカ国民を対象に、コンピューターを介した自記式質問票を用い調査を行った。新規飲酒者は調査の直前に初めて飲酒を行ったものとした(12歳から25歳の計32,562人)。また、アルコール依存の基準はDSM-IVに基づき評価した。</p> <p>結果： 女性では、初めての飲酒からアルコール依存に至るその移行のピークは思春期にあると推定され(12-17歳:3%, 95%信頼区間:2-3%)、男性ではその推測は2%付近で変動し、年齢による明らかな差異は認めなかった。12歳から17歳での新規飲酒者では、女性のほうがよりアルコール依存に移行しやすく、男性は若年成人(18-25歳)でアルコール依存への移行しやすいことが示された。年別のコホートにて評価しても、初めての飲酒年齢とアルコール依存との関連は同様のパターンを示した。</p> <p>結論： 若年新規飲酒者を調査した結果、思春期において初回飲酒からアルコール依存への移行リスクは女性で明らかに高く、男女間で異なることが示された。</p>		